

航空機用標準部品から  
宇宙ステーション部品  
まで

# 川西航空 機器工業 株式会社

兵庫県  
川西市下加茂2-1-6

1967年(昭和42年)設立  
072-759-4145

<http://www.kapp.co.jp>



代表取締役社長  
深田 政宏

航空宇宙機器は、国産航空機から純国産大型ロケットH-2Aにも幅広く採用。  
日本初の有人活動実験棟「きぼう」の空調設備を開発し、NASAも高く評価。

## 技術と信頼

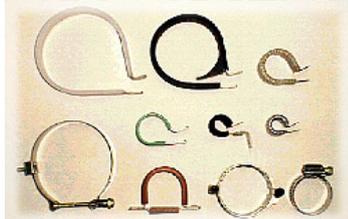
創業は1950年(昭和25年)。電話交換機部品からスタートし、航空機産業の再開から、航空機用ホースクランプ(標準部品)を生産開始。国内航空機産業の発展に寄与している。一般配線、配管用ホースクランプから、使用用途に合わせ耐熱、耐燃料等のホースクランプを開発。純国産大型ロケットH-2Aの第1段エンジン、第2段エンジンにも採用され、高い評価を得ている。

## 多様なニーズへの対応

ホースクランプの開発から得た技術を生かし、航空機搭載用薄板板金部品、国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の空調設備等、設計開発から生産まで、顧客の多様なニーズに対応。JIS Q 9100の認証も取得しており、国内航空機・宇宙産業の発展に寄与している。

## 機械加工分野への進出

航空機業界で使用されている主流3DCADシステムの数値データを変換することなく、CAMに取り込み、高速同時5軸マシニングセンターで加工。同じデータから3次元測定器による検査ができる体制を確立。高精度化する航空機部品加工分野への取り組みを進めている。



ホースクランプ(配管やホース類を固定する)



ボンディングジャンパー(機体と電子機器類の電位差をなくす)

